



4



渡邊会長

山梨市川三郷町農業委員会

「スイートコーンのヒゲ(絹糸)の数は実の数の分散、高温障害を防ぐと同じ。ヒゲの多い方が実の詰まった証拠——」。

山梨県市川三郷町農業委員会会長の渡邊千雪さん(71)は、こう語る。

町特産であるスイートコーン「甘々娘」の早出しトンネル栽培で、

早出しトンネル栽培

同町大塚地区は初春か

若手農家の技術指南役に

日照時間が長く、トンネル栽培をすることでスイートコーンの生育に良好な条件を整えている。

3月に播種。ポリオレフィン系無色(透明)フィルム(トンネル)を一枚



甘々娘(JA山梨みらい提供)

ことば
イカラー(黄色と白色の実

中旬出荷となる作型が、地域の特性を生かして確立されている。

労力を分散させ、切れ目のない収穫を実現するため、多様な作型を組み合わせたリレー栽培だ。

凍霜害による減収リスクを分散する目的もある。

早出し栽培で収益を増やして、経営の安定と集中出荷の回避を図る。

トンネル内の温度が上昇すると、主穂の伸長や分けつの発育が劣り、品質や収量が低下する



フィルムを部分開放して換気する

め、換気作業は欠かせない。朝、トンネルのビニールを開け、夕方に閉める重労働だ。10町当たりで40分はかかるという。

89町栽培する渡邊会長は、5葉期以降にトンネルの裾を部分開放する。夜間を含め、開放状態にして寒さに慣らす。二重トンネル栽培では、比熱

を利用して幅20センチの水封マルチ(ダクト)を設置したり、追加で不織布を重ねて掛ける方法も取り入れている。

換気作業が省力化し、低温障害を受けても被害を最小限に抑えられる。

後進育て産地振興

「地域を担う若手農家に自分の知識を伝え、背中を押してあげたい」。

渡邊会長は、県、峡南農務事務所(峡南地域普及センター)、JA山梨みらいとの実証試験に協力、その結果を若手農家らに集まる研修会や講習会を

通じて情報提供し、産地の振興につなげている。

例えば、凍霜害を防ぐため地区の気温を測定、結果を甲府気象台の気温と比べ、最高・最低温度で約3度の差を確認し、温度管理に役立てている。

また、普及する既存のトンネル被覆資材の製造中止に伴い、代替資材の選定を提案。トンネル栽培で資材ごとの生育、品質、保温特性についての比較試験にも加わる。

後進の指導にあたる渡邊会長は、昨年、山梨県農水産業功績者表彰(野菜部門)を受賞した。